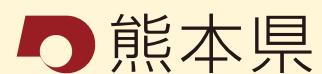
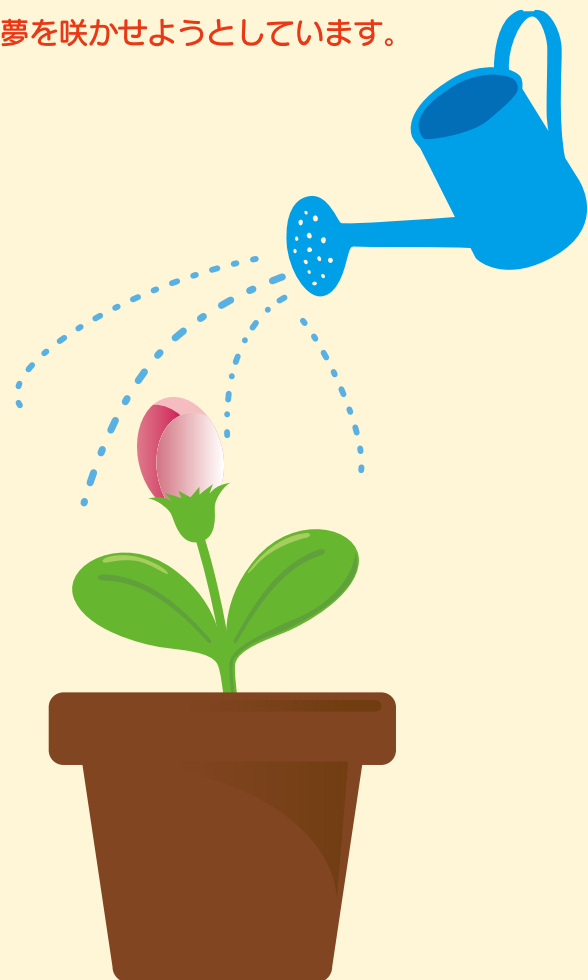


熊本県にきずなの花が、 咲きはじめています。

地域からの提言をもとに、NPOや企業などと行政（県、市町村）の協働により、それぞれの地域課題の解決にあたる「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」がすすめられています。連携する力により、新しい絆が実を結び、大きな夢を咲かせようとしています。



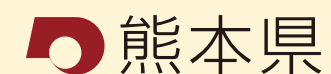
男女参画・協働推進課
〒862-8570 熊本市中央区水前寺6丁目18-1
TEL.096-333-2286 FAX.096-387-3940
Eメール danjokyoudou@pref.kumamoto.lg.jp

新しい公共支援事業について

「新しい公共」とは、生活に身近な子育て、環境、まちづくりなどの地域課題解決に県民、NPO、企業、行政等が連携して住民のニーズにそったサービスを提供するなど、皆が参加し支えあう仕組みのことです。

新しい公共支援事業は、新しい公共の担い手となるNPO等の自立的活動を後押しし、新しい公共の拡大と定着を図るものです。

中でも、新しい公共の場づくりのためのモデル事業は、多様な担い手(マルチステークホルダー)が、地域の課題解決や価値創造につながる新しい取組を行うことで、「新しい公共」が目指す社会への進展につなげるものです。



平成23年度－平成24年度 熊本県 新しい公共支援事業 熊本の「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」

個性あふれる13の「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」を
未来を担う若者たちが取材したものをご紹介します。

H23-H24 **官・民・学連携による過疎高齢地域
再生モデル事業「上天草元気島計画」**

NPO等 特定非営利活動法人ひとづくりくまもとネット
行政機関 上天草市（健康づくり推進室）
◎取材班：上天草市立今津中学校のみなさん

掲載ページ **3**

H23-H24 **山鹿まるごと満喫・
周遊観光ツアー実証事業**

NPO等 山鹿温泉観光協会
行政機関 熊本県（鹿本地域振興局総務振興課）
◎取材班：熊本県立鹿本農業高等学校郷土芸能伝承部のお2人

掲載ページ **10**

H23-H24 **食と農を大切にする
市民コミュニティの形成事業**

NPO等 「合志あぐっと！村」運営協議会
行政機関 合志市（まちづくり戦略室）
◎取材班：熊本高等専門学校広報放送委員会の生徒さん

掲載ページ **4**

H24 **アニメ・マンガを活かした
地域活性化事業**

NPO等 こうしパーチャル市役所アニメ・マンガコンテンツ課
行政機関 合志市（まちづくり戦略室）
◎取材班：熊本県立第二高等学校美術科の生徒さん

掲載ページ **11**

H23-H24 **新しいUD総合プロデュースの
担い手づくり事業**

NPO等 NPO法人 UDくまもと
行政機関 熊本県（健康福祉政策課）
◎取材班：西原村立西原中学校ボランティアクラブ「れんこん」のメンバー

掲載ページ **5**

H24 **熊本若手NPO活動者
育成プロジェクト**

NPO等 NPO法人 NEXTEP
行政機関 熊本県（くまもと県民交流館パレア）
◎取材班：熊本県立大学総合管理学部の学生さん

掲載ページ **12**

H23-H24 **ママ応援センター開設運営事業**

NPO等 NPO法人 人材育成支援センター
行政機関 上天草市（子育て支援室）
◎取材班：熊本県立上天草高等学校のお2人

掲載ページ **6**

H24 **「天草松島」景観再生支援事業**

NPO等 NPO法人 KAプロジェクト
行政機関 熊本県（企画課）
◎取材班：熊本県立上天草高等学校のお2人

掲載ページ **13**

H23 **市民協働による新玉名駅
利活用促進モデル事業**

NPO等 新玉名駅利活用協議会
◎取材班：玉名市立玉陵中学校生徒会のみなさん

掲載ページ **7**

H24 **野焼き継続に向けた安全対策強化及び
草原担い手のすそ野拡大事業**

NPO等 公益財団法人 阿蘇グリーントック
行政機関 熊本県（地域振興課）
◎取材班：阿蘇市立坂梨小学校のみなさん

掲載ページ **14**

H23 **阿蘇の草原を守り継ぐ活動支援事業**

NPO等 公益財団法人 阿蘇グリーントック
行政機関 熊本県（地域振興課）
◎取材班：阿蘇市立坂梨小学校のみなさん

掲載ページ **8**

H24 **野草の需要拡大による
阿蘇の草原保全モデル事業**

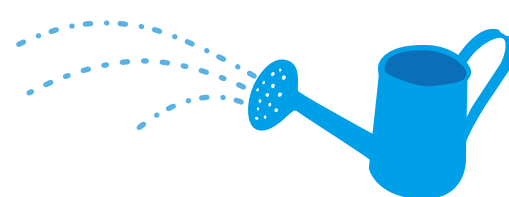
NPO等 特定非営利活動法人 九州バイオマスフォーラム
行政機関 阿蘇市（農政課）
◎取材班：阿蘇市立一の宮中学校のみなさん

掲載ページ **15**

H23-H24 **熊本県小水力発電研究会事業**

NPO等 NPO法人くまもと温暖化対策センター
行政機関 熊本県（エネルギー政策課）
◎取材班：熊本県立技術短期大学校
機密機械技術科のお2人

掲載ページ **9**



※取材班の学校名等は平成25年2月の取材時の状況です。

健康をキーワードに つなげよう元気の輪！

官・民・学連携による過疎高齢地域再生モデル事業「上天草元気島計画」

テーマは「官・民・学連携による過疎高齢地域再生モデル事業「上天草元気島計画」」。
レポートするのは、上天草市立今津中学校のみなさんです。



家から地区、地区から市、市から市外へ！
交流の場を3段階をおって拡大する

この事業の目的を教えてください。

「健康課題」「地域格差」「観光低迷」といった上天草市の異なる課題に対し、「健康（元気）」をキーワードにつながりをもたせながらサービスを提供し、地域の活性化を図ることが目的です。上天草市は肥満率が高いことから、市民のみなさんへ運動の必要性を啓発することは大切です。「つなげよう元気の輪」を合い言葉に、家から地区、市、市外へと市民の交流の場を拡大させてきました。



▲特定非営利活動法人ひとづくりくまもとネットの岡田聖史さん

健康教室を開催し、元気リーダーを養成する
「元気島祭り」など多彩なイベントも注目！

各地で運動教室を開催していますね？

事業の第1段階では「元気づくりプログラム」として、松島、姫戸、龍ヶ岳、大矢野の4つの地区で高齢者を対象に運動教室を実施。体力測定や健康づくりに関する講話、ストレッチ・リズム運動などを行っています。さらに本事業を今後も継続していくために、希望者の中から元気づくりプログラムを企画・運営できるリーダー、名付けて「元気リーダー」を養成しています。

ほかにはどんな活動をしていますか？

第2段階では、「市民交流型イベントプログラム」を実施。平成25年の1月に上天草市総合センター・アロマで「元気島交流会」を開催し、運動教室や体力診断、高舞登山ウォーキングなどを行いました。上天草市の各地より子供からお年寄りまで約70名の参加があり、地域間・世代間で交流できてとても盛り上がりしました。3月には「元気島祭り」を開催しました。健康をテーマとした講演会やクイズウォークラリー、郷土料理試食コーナー、特産品販売コーナーなど多彩な催しを行いました。

第3段階では、観光協会や旅館組合とタイアップし、上天草の自然や食を堪能すると共に、健康プログラムも体験できる「上天草元気島健康ツーリズムプラン」を計画中。上天草市から市外へと元気の輪をさらに広げていきます。

特定非営利活動法人ひとづくりくまもとネット

上天草市松島町合津4276-44 上天草市松島総合センター「アロマ」
☎0969-56-0777 <http://genkijima.blogspot.jp>

行政機関 上天草市（健康づくり推進室）

■会議体（マルチステークホルダー）の構成
NPO法人ひとづくりくまもとネット、アロマクラブ、上天草市地域婦人会、13地区まちづくり委員会、上天草市、熊本大学、（株）祐和會



取材班

上天草市立今津中学校
のみなさん

食と農をキーワードに ふるさと合志市をアピール！

食と農を大切にする市民コミュニティの形成事業

テーマは「食と農を大切にする市民コミュニティの形成事業」。
レポートするのは、熊本高等専門学校広報放送委員会の生徒さんです。



20代の若手農業従事者を中心に農業と
合志の魅力を伝え、まちづくりを目指す

「あぐっと！村」という名前の由来を教えてください。

まずは農業を意味する英語の“アグリ”に“人(と)”をプラスして「あぐっと」であり、おいしい野菜を“提供する”を熊本弁の「あぐっと」で表現しました。さらに、食と農を通してふるさと合志市の魅力を“あげる”という意味も込めています。そこで、20代の若手農業者を中心としたメンバーが、企業やNPO団体、行政の人たちと一緒に、情報通信技術（ICT）を活用して、合志市の魅力をアピールする取り組みを行っています。



う情報コーナーを受け持ち、私たちがキャスターも務めているんですよ。“呼ぶ”キーワードでは合志市見学バスツアーを実施。熊本市内の消費者の方たちを招いて、農作業の見学や地元料理を堪能してもらいました。“つながる”は、熊本市内のスーパーで販売会を開催し、生産者と消費者の顔が見える関係づくりに取り組んでいます。

今後の活動はどのような展開を考えていますか？

スイカの栽培をはじめ盛んな合志の農業について多くの人に知っていただくために、ICTによる情報発信はもちろん、直接消費者の皆さんと交流できるよう、バスツアーや販売会も積極的に開催したいですね。また、平成24年は合志市の新しい特産品を作ろうと、合志市の九州沖縄農業センター協力のもと、「春蒔き蕎麦」の栽培に挑戦。見事、夏に食べられる新そばを収穫できました。その「春蒔き蕎麦」の種の販売も平成25年からスタートする予定です。これからもバーチャルとリアルな方法を駆使してがんばります。

「合志あぐっと！村」運営協議会

合志市福原2922 合志市総合センターヴィーブル1F すみっこの台所
☎096-247-3099 <http://www.agutto.com/>

行政機関 合志市（まちづくり戦略室）

■会議体（マルチステークホルダー）の構成
NPO法人くまもと未来、NPO法人くまもとインターネット市民塾、元気の森の元気市実行委員会、農家レストランすみっこの台所、株式会社富士通九州システムズ、合志市、「合志あぐっと！村」運営協議会



取材班

熊本高等専門学校
広報放送委員会の生徒さん

UDを取り入れた都市設計で 誰もが外出を楽しめる街に

新しいUD総合プロデュースの担い手づくり事業

テーマは「新しいUD総合プロデュースの担い手づくり事業」。
レポートするのは西原村立西原中学校ボランティアクラブ「れんこん」のみなさんです。



街にある障壁を取り除いて、誰もが
安心して外出できる街を目指しています

この事業を始められたきっかけを教えてください。

平成18年に「バリアフリー新法（高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律）」が施行され、これまで対象外だった道路や駐車場、公園のバリアフリー化が追加されました。誰もが使いやすいユニバーサルデザインに配慮するといっても、目の見えない方と車いすの方では捉え方が違います。そこで、バリアフリー新法を踏まえて当事者の意見をまとめ、建築施工に関わる方たちへ提言することになりました。



NPO 法人UDくまもと矢ヶ部孝志さん



「人にやさしい街づくり」は、
みんなの意見を聞くことから始まります

この事業のユニークなポイントは？

誰もが使いやすい施設、暮らしやすい街づくりを目指して、さまざまな立場の人の意見を聞くことです。高齢者、障がい者、子育て中のお母さんなど、それぞれの主張や要望を聞き、みんなの意見が反映できるように「UDくまもと」がまとめて設計者に伝えます。他県にはない取り組みが評価され、「平成24年度バリアフリーユニバーサルデザイン推進功労者表彰 内閣府特命担当大臣表彰優良賞」を受賞しました。

現在の活動状況と、これからの展開を教えてください。

発足以来、高齢者や障がい者など移動に制約がある方々に、外出を楽しんでもらうためのお手伝いをしてきました。県外から熊本へ観光旅行に来られる方にも、体の状態に合わせて食事や宿泊、観光地などのアドバイスを行っています。今後は、地元の人たちとの交流を楽しむ拠点作りにも取り組み、平成25年度に熊本市中央区の子飼商店街に交流の場を造る予定です。

県民のみなさまへPRをお願いします。

私たちは、「便利になった」と感じさせないようなユニバーサルデザインの導入を目指しています。誰の目にも触れない活動ですが、多くの人たちに役立つこと。そういった縁の下の方の力持の団体が熊本にはたくさんあることを知ってほしいですね。

NPO法人 UDくまもと

熊本市東区長嶺西1-6-88-102
☎096-202-1792 <http://www.ud-kumamoto.jp/>

行政機関 熊本県（健康福祉政策課）

■会議体（マルチステークホルダー）の構成
（社）熊本県建築士事務所協会、（社）熊本県老人クラブ連合会、NPO法人こそでサポーターあがり、NPO法人UDくまもと、熊本県（健康福祉政策課、建築課）



取材班

西原村立西原中学校
ボランティアクラブ「れんこん」のメンバー

※UD（ユニバーサルデザイン）とは、障がいの有無、年齢、性別等に関係なく、だれもが利用できるような製品、建物などの環境をデザインするという考え方です。

ルールはみんなの笑顔！ 親子で楽しめる交流の場

ママ応援センター開設運営事業

テーマは「ママ応援センター開設運営事業」。
レポートするのは、熊本県立上天草高等学校のお2人です。



子育て中の市民の声を実現すべく誕生！
子供とそのママたちの交流の場をサポート

この事業を始められたきっかけはなんですか？

上天草市には保育園に入所できない子供とその親御さんたちの交流の場が少なく、平成22年度市民意識調査では、20～30代の子育て世代より「雨天時でも子供たちが遊べる施設がほしい」などの意見が多く寄せられました。そこで、これらの要望に応えるべく未就学の子供たちの体験・交流の場であると同時に、母親たちの交流の場を提供しサポートする「ママ応援センター」を開設しました。



パパ・ママの提案を取り入れイベント開催。
相談窓口ではあらゆる悩みに親身に対応

どのような活動を行っているのですか？

上天草市大矢野自然休養村管理センター2階に、子供たちの遊び場を開設。さらに、親御さんたちの希望や提案を積極的に取り入れ、海水浴など季節行事や読み聞かせ、親子健康体操、ダンス、お母さんたちの料理教室など、肩の凝らないコミュニティイベントを開催しています。「ルールはみんなの笑顔」を合い言葉に、子供たちはもちろん、親御さんたちも交流し笑顔になれる公共の場を目指しています。

センターでは相談窓口も開設していますよね？

「ママ応援センター」にはカウンセラーが常駐しており、子育てに悩む親御さんが気軽に相談・利用できると、とても喜ばれています。相談窓口では子育ての悩み以外にも、社会問題化しているいじめや不登校、非行の相談も多く、行政や教育委員会、学校、保護者、地域の方たちと連携を密に持って早期解決に向け対応しています。それらの問題を実際に解決できた方の明るい笑顔を見て、この事業を行って良かったと改めて感じました。また、子育て中の方たちの悩みを解決できるような組織の強化と同時に、専門講師による子育て講座の実施、子育て経験者である地域のお母さんを講師に招いて子育てノウハウを教えて頂く講座なども開いています。これからも地域の子育ての課題を解決しつつ、「上天草市で子供を産んでよかった、子育てをしてよかった」と、笑顔あふれる地域づくりを目指してがんばります。

NPO法人 人材育成支援センター

上天草市大矢野町上1539 上天草市大矢野自然休養村管理センター 2F
☎0964-57-4300 <http://mamasapo.kamiamakusa-npo.org/index2.html>

行政機関 上天草市（子育て支援室）

■会議体（マルチステークホルダー）の構成
NPO法人人材育成支援センター、上天草市、休養村管理団体、NPO法人KAプロジェクト、上天草慈秀



取材班

熊本県立上天草高等学校
のお2人

多くの人々が訪れるよう 新玉名駅の魅力をアップ！

市民協働による新玉名駅利活用促進モデル事業

テーマは「市民協働による新玉名駅利活用促進モデル事業」。
レポートするのは、玉名市立玉陵中学校・生徒会のみなさんです。



九州新幹線開業をきっかけに、民間が主体と
なって、行政と連携して地域活性化を促進

この事業を立ち上げたきっかけはなんですか？

九州新幹線全線開業にともなう新玉名駅の開業をきっかけに、「新玉名駅利活用協議会」を発足し、玉名市の活性化をはかる目的でスタートしました。同協議会は、玉名商工会議所やNPO団体、玉名青年会議所、玉名市建設協会、玉名地域振興局、玉名市などのメンバーで構成されており、民間が主体となって、行政と連携しながら活動しているのが特徴です。同駅が市民や来訪者に愛され、より多くの人が集まるための仕組みづくりを推進しています。



▲新玉名駅利活用協議会の山田浩之さん

春には1500万本の菜の花が駅周辺を彩る
フェスタやツアーなど多彩なイベント開催

新玉名駅周辺の景観づくりにも力を注いでおられとか。

毎年、個人や学校、企業など市民のみなさんと一緒に、新玉名駅周辺に1500万本の菜の花の種を植えています。秋の種まき会には約400人以上が参加。おかげさまで春には駅周辺を黄色い菜の花のじゅうたんが彩ります。平成23年にはこの菜の花活動を継続するために募金での支援を行う「菜の花サポーターズクラブ」を発足。また、菜の花畑で収穫した「菜の花米」の販売も実施しています。



さまざまなイベントも開催していますね？

平成24年3月に駅前広場を会場に「菜の花フェスタ」を開催しました。食と物産の販売コーナーや薬草足湯体験、コンサートなどを実施。「くまモン」や玉名市マスコット「タマにゃん」なども登場し、500人以上が来場して大盛況でした。また、薬草と温泉の郷と知られる玉名市ならではの1泊2日のモニターツアーを実施。約20人の参加があり、薬草講演会や薬草風呂、薬草料理などを楽しんでいたされました。平成25年は2種類のモニターツアーを実施しましたが、2日でキャンセル待ちの状態になり、大人気となりました。九州看護福祉大学でお灸体験や蓮華院誕生寺の「大茶盛」など、地元の施設や観光資源と連携し、さらに魅力的な内容となっています。今後はこの「薬草づくし健康体験ツアー」を旅行商品化し、玉名市へ多くの集客をはかります。1年を通じて楽しめる新たなイベントもどんどん企画していきたいですね。

新玉名駅利活用協議会

玉名市繁根木163 玉名市役所地域振興課内
☎0968-75-1421

■会議体（マルチステークホルダー）の構成
NPO法人音楽のあふれる都たまな、玉名観光協会、玉名青年会議所、玉名市建設協会、新玉名駅開業イベント実行委員会、玉名市、熊本県玉名地域振興局



取材班

玉名市立玉陵中学校
生徒会のみなさん

人と自然との共生の産物！ 草原の恵みを受け継ぎたい

阿蘇の草原を守り継ぐ活動支援事業

テーマは「阿蘇の草原を守り継ぐ活動支援事業」。
レポートするのは、阿蘇市立坂梨小学校の5年生のみなさんです。



世界に誇るべき「自然と人との共生の産物」
阿蘇の草原を守るため、後継者の育成を！

この事業の目的はなんですか？

世界最大級のカルデラ地形の上に広がる阿蘇の草原は、千年もの昔から放牧や採草、野焼きなどにより守り続けられてきています。まさに世界に誇るべき「自然と人との共生の産物」。ところが近年、地元の高齢化などさまざまな要因により、草原の維持が困難になってきています。そこで、草原の美しさを保つのに不可欠な野焼き作業などを分かりやすく伝え、草原維持に取り組む後継者育成を目的に活動しています。



▲公益財団法人 阿蘇グリーントックの
宮永整一さん

航空写真を利用した作業マニュアルを作成し
後継者たちに野焼き技術を分かりやすく伝承

具体的にはどのような活動を行っているのですか？

阿蘇市50の牧野の輪地切り(防火帯作り)と野焼きの手順を図面化した「輪地切り・野焼きマニュアル」を作成しました。各牧野の航空写真に、牧野や野焼き面積などのデータ類はもちろん、火入れスタートから終了地点などの作業手順を落とし込みました。実は、これまで輪地作りと野焼きの作業方法は口伝えだったのですが、このマニュアルを作成したことで作業自体もスムーズに行えたと共に、若い人たちにも分かりやすく伝えることができるようになったんです。それが、草原維持の後継者の増加と新たな指導者の育成にもつながると思っています。

今後の活動の展開はどのようにお考えですか？

阿蘇の草原の素晴らしさをたくさんの人に知ってもらうために、さまざまな活動をしていきます。現在、小学校などで出張講座や体験学習を実施。阿蘇の草原に関する環境学習用DVDを、熊本県内の小学校で環境教育の教材として活用してもらうことも推進中です。また、「阿蘇草原再生募金」や野焼き支援ボランティアの普及・啓発にも積極的に協力していきます。広大で優美な阿蘇は、その美しい景色をはじめ希少な動植物を育むなど、草原からの恩恵はさまざま。長い間守られ続けてきた「千年の草原」の恵みを、これから千年先までも受け継いでいけるように、今できることを精一杯していきたいと思っています。

公益財団法人 阿蘇グリーントック

阿蘇市石1537-1
☎0967-35-1110 <http://www.asogreentock.com/>

行政機関 熊本県(地域振興課)

■会議体(マルチステークホルダー)の構成
公益財団法人阿蘇グリーントック、財団法人阿蘇地域振興デザインセンター、
野焼き支援ボランティアの会、阿蘇市、熊本県(地域振興課)



取材班

阿蘇市立坂梨小学校
のみなさん

環境に優しい新エネルギー 小水力発電の普及を目指す！

熊本県小水力発電研究会事業

テーマは「熊本県小水力発電研究会事業」。
レポートするのは、熊本県立技術短期大学校のお2人です。



地球温暖化対策が使命！
水の都・熊本県に、小水力発電を広めたい

この事業を始められたきっかけと目的を教えてください。

地球温暖化対策の一環として、CO₂の発生量が極端に少ない小水力発電を県内で広めることが目的です。東日本大震災以降、太陽光や風力、水力等の自然エネルギーは、環境に優しいエネルギーとして注目を集めています。水力の中でも小水力は、ダムなど大規模な施設を必要とせず、農業用水路などを利用した発電出力1kw以下の小規模な発電所で、地域分散型の創エネが可能です。水の都熊本は、小水力発電の可能性が多く、地方自治体や地域の方々との協働による普及に努めています。



▲NPO法人くまもと温暖化対策センター
田邊裕正さん

先人が残してくれた農業用水路を活用し、
100年先の未来へつなげていく！

どのように事業を進めているのですか？

まずは「熊本県小水力発電研究会」を発足し、小水力発電に関して徹底的に勉強しました。その後、具体的な事業化に向け、発電所の適地を探すことや、さまざまな課題を解決するための調査や調整を行っています。今進めているのは、農業用に利用した余り水を発電用に有効に活用することです。水力発電事業は、100年余りの持続性のある事業とされていますから、先人が残してくれた農業用水路が、さらに未来に続く事業として活用されるわけです。

現在の活動状況と今後の展開を教えてください。

熊本県小水力発電研究会産業振興部会では、マイクロ水力発電装置(10kw以下)を開発し、平成25年3月に南阿蘇村で実証実験をしました。また、来年度は、マイクロ水力発電装置の制作教室の開催も計画しています。研究会導入促進部会では、県内36力所の候補地の中から1か所を選定し、平成26年度の事業開始に向け必要な作業を進めており、平成25度には発電所建設工事に着手する予定です。これらの自然エネルギーを活用した発電施設が、社会的に必要とされ認知されてきていますので、多くの県民の方に事業に参加(出資)いただく仕組みも考えています。小水力発電事業について、今後、可能性等調査申込書を用意しますので必要な方は事務局までお申し出、ご相談いただければと思います。

NPO法人 くまもと温暖化対策センター

熊本市中央区桜町3-35産交ビル1F
☎096-356-4840 <http://www.kuma-ontai.jp>

行政機関 熊本県(エネルギー政策課)

■会議体(マルチステークホルダー)の構成
NPO法人くまもと温暖化対策センター、熊本県(エネルギー政策課)、熊本県小水力
利用推進協議会、(株)有明測量開発社、(株)環境と開発、富士電機(株)



取材班

熊本県立技術短期大学校
機密機械技術科のお2人

温泉や美味しいものを満喫 山鹿を楽しむ新・観光プラン

山鹿まるごと満喫・周遊観光ツアー実証事業

テーマは「山鹿まるごと満喫・周遊観光ツアー実証事業」。
レポートするのは、熊本県立鹿本農業高校郷土芸能伝承部のお2人です。

福岡からの来訪者を点在する名所や物産館へ
タクシーでご案内！バス車内でお買い物も！

この事業を始められたきっかけを教えてください。

2011年、観光協会は福岡・山鹿直行バス「よへほ号」の運行を開始。来訪者は増えたものの、バス降車後の交通手段がないため、山鹿市内に点在する観光施設や物産館へご案内することが出来ませんでした。そこで、地元タクシー業者会と連携して「タクシーで巡る“山鹿まるごと満喫湯り旅(やまたび)”」を、山鹿市物産館連絡協議会と連携して「バス車内で買い物できる“らくらくダイスキお買い物”」を企画しました。



声を聞ける機会となっています。宿でも山鹿の特産品を満喫していただく「山鹿温泉プレミアム宿泊プラン」を展開。おもてなしのために観光協会、タクシー会社、物産館、宿がスクラムを組むのは初めてのことです。

今後の展開は？

マイカーや他の交通手段で来訪される方々にも対応したいです。タクシードライバーの皆さんが山鹿の歴史や名所を勉強したように、山鹿の良さを語る人を一人でも多く増やしたい。山鹿に関わる人々の総力を結集してお客様をおもてなしする仕組み作りが目標です。

県民のみなさまへ PR をお願いします。

山鹿といえば温泉のイメージですが、季節の野菜、やまが和牛、地の農産物を使ったお菓子などおいしいものもたくさん。山鹿に来ていただき、よさを満喫してください。

山鹿温泉観光協会

山鹿市中央通510-2
☎0968-43-2952 <http://www.y-kankoukyoukai.com/>

行政機関 熊本県(鹿本地域振興局総務振興課)

■会議体(マルチステークホルダー)の構成
山鹿温泉観光協会、平山温泉観光協会、菊池町観光協会、山鹿市タクシー業者会、山鹿市物産館連絡協議会、山鹿市、熊本県鹿本地域振興局



取材班

熊本県立鹿本農業高等学校
郷土芸能伝承部のお2人



合志市から世界へ発信！ アニメ・マンガの聖地へ

アニメ・マンガを活かした地域活性化事業

テーマは「アニメ・マンガを活かした地域活性化事業」。
レポートするのは熊本県立第二高等学校 美術科の生徒さんです。

マンガミュージアムやクリエイター育成も。
数々のプロジェクトが合志市で始動！

この事業を始められたきっかけを教えてください。

合志市長が「アニメを活かしたまちづくり」をマニフェストに掲げられ、アニメ・マンガ文化に理解ある行政なら、「熊本をマンガの聖地にしよう」と活動してきた私たち「NPO 法人グランド12」と連携できると考え、新しい取り組みがスタートしました。京都市では、「国際マンガミュージアム」「精華大学マンガ学科」など、アニメ・マンガを活かした観光客誘致に成功しています。京都市を手本に、プラス熊本ならではのよさを見出し、継続できるプロジェクトとして育てていきたいと考えています。



今後の展開を教えてください。

熊本でアニメ・マンガ文化を育てるだけでなく、産業としての確立も目標の一つ。マンガ家や制作会社を誘致するなど、地方でもプロが仕事ができる環境整備にも、今後取り組みたいと考えています。また、湯前などマンガでまちおこしに取り組む各地と連携し、アニメ・マンガをテーマに熊本県をめぐる新しい観光の形を作っていきたいと思います。

県民のみなさまへ PR をお願いします。

熊本は、マンガ家やアニメクリエイターが数多く輩出する「アニメ・マンガ王国」です。その国民として、アニメ・マンガ文化を盛り上げて欲しいですね。

こうしパーチャル市役所アニメ・マンガコンテンツ課

熊本市中央区中央街5-17
☎096-248-1111(合志市まちづくり戦略室)

行政機関 合志市(まちづくり戦略室)

■会議体(マルチステークホルダー)の構成
NPO法人グランド12、熊本高等専門学校、プライムスイッチ(株)、(株)フェザンレーブ、NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクト、日本トータルテレマーケティング(株)、こうしパーチャル市役所アニメ・マンガコンテンツ課、合志市



取材班

熊本県立第二高等学校
美術科の生徒さん



夢を持った若者が集合！ 地域社会とつなぐ第一歩に

熊本若手NPO活動者育成プロジェクト

テーマは「熊本若手NPO活動者育成プロジェクト」。
レポートするのは、熊本県立大学総合管理学部の学生さんです。

地域社会は、多くを学び、自分を磨く場。
その経験は社会人になっても宝物！

この事業を始められたきっかけを教えてください。

学生時代にサークル活動やアルバイトだけでなく、NPOで社会とつながり、活動することは自分たちの糧になります。私たち自身が大学生の頃、多くの人との出会いや交流を通して、今につながる学びを得ることができました。また結果的に社会人になっても続くネットワークを築くことができました。学生のみなさんにも、学内では得られない経験をしてもらう“きっかけの場”を提供したいと活動をしています。



▲NPO 法人 NEXTEPの島津智之さん

多くの人と出会い、さまざまな価値観に触れる。
きっかけづくりから始まるNPO活動

現在の活動状況と、この事業のユニークなポイントは？

NPOと出会うきっかけづくりを目的としたNPO合同ガイダンス、全国から社会起業家をお呼びしての講演会、県内のさまざまな団体が社会に向けて活動している状況を紹介する交流会などを行ってきました。さまざまな人たちの話を聞くことをインプットとすれば、学生に自らの企画を発表してもらうアウトプットの機会も設けています。社会問題へアプローチするには、一人では何もできません。これらのイベントを通して、情報収集や仲間づくりをする機会になり、参加者が企画する側に成長していきます。

NPO法人NEXTEPとしては15年前から続けている活動ですが、今回のプロジェクトでは、それぞれ別の仕事をしていた当時の仲間が、団体や立場を越えて十数年ぶりに再結集し、仕組みづくりに取り組んでいることが独自性だと思います。

今後の展開と、県民のみなさんへのPRをお願いします。

私たちも先輩から指導を受けながら活動を続けてきたので、社会と大学生のみなさんをつなぐ活動を続けていきたいと思っています。学生時代のネットワークは、10年後も機能して社会を変える力になります。情熱を持って活動し続けて欲しいと思っています。また、熊本はコンパクトにまとまった街なので、それぞれで活動する団体も連携しやすいと思います。思いが同じなら、年齢に関わらず、できる範囲で行動する。そういった協力体制が、県民レベルで築いていけると良いですね。

NPO法人 NEXTEP

合志市野々島2461-2
☎096-288-2311 <http://www.nextep-k.com/>

行政機関 熊本県（くまもと県民交流館バレア）

■会議体（マルチステークホルダー）の構成
NPO法人NEXTEP、一般社団法人フミダス、株式会社ディカーナ、NPO法人ドットジェービー熊本支部、くまもと県民交流館バレア



取材班

熊本県立大学総合管理学部の学生さん

「天草松島」の魅力を知り 景観再生の原動力に！

「天草松島」景観再生支援事業

テーマは「天草松島景観再生支援事業」。
レポートするのは、熊本県立上天草高等学校のお2人です。

松が生い茂る島々…これぞ上天草の宝！
「天草松島」の美しい景観を取り戻そう

この事業を始められたきっかけはなんですか？

天草松島は以前はたくさんの松が生い茂る島々で成り立ち、大変美しい景観だったと言います。しかし近年、松くい虫などによる松枯れ被害や心ない来訪者のゴミのポイ捨て、整備活動の縮小化などさまざまな要因から徐々に魅力を失いつつあるのが現状。そこで、このまま上天草市の宝である「天草松島の美しい景観」が失われるのを黙って見過ごすわけにはいかない！と、この事業を実施することにしたのです。



▲NPO法人 KAプロジェクトの田中万里さん

高校生たちのプロジェクトチームを編制！
体験を通して「天草松島」の魅力を知る。

この事業の他にはないユニークなポイントは？

上天草高校の情報会計科の生徒たちで「天草松島プロジェクトチーム」を編制し、生徒たちと協働で活動している点です。将来の上天草市を担っていく高校生たちに、まずは上天草の魅力を知ってもらい、共に活動することが、天草松島の美しい景観を再生し、さらに継続・維持することにつながっていると思います。高校生からは大人では考えもつかなかった意見なども出て、いい刺激になっています。

天草松島ならではの体験活動を実施されていますね。

「天草松島」の景観を大事にしていこうという意識を高校生たちに芽生えさせるため、水上バイクやバナナボート、流木アート、クルージングなどさまざまな体験活動を実施。船から夕日を眺めた高校生からは「ウワーッ」という歓声が上がりました。楽しい体験を通して、子供たちは上天草の魅力をあらためて実感し、彼らの記憶に残ると思います。実際、「地元に誇りを持った」「いつまでも天草松島の良さを忘れないようにしようと思う」などの声を聞くことができました。さらに、子供たちは授業で習う情報会計の技術を生かして、ホームページ等で活動の情報発信をしていく予定。その他、清掃活動や天草松島についての講座、活動を紹介するリーフレット作成なども行っています。今後も子供たちが体験を通して、自分たちの考えと行動で、「天草松島」の美しい景観を再生し、継続・維持していけるよう、啓発活動を続けていきたいですね。

NPO法人 KAプロジェクト

上天草市大矢野町登立14147-4
☎0964-56-3333 <http://kaproject.jp>

行政機関 熊本県（企画課）

■会議体（マルチステークホルダー）の構成
NPO法人KAプロジェクト、熊本県（企画課）、上天草高等学校、上天草市商工会、上天草市建設業協会、天草四郎観光協会、上天草市、熊本県天草地域振興局



取材班

熊本県立上天草高等学校のお2人

絶対、事故を起こさない！ 安全な野焼きの実現を

野焼き継続に向けた安全対策強化及び草原担い手のすそ野拡大事業

テーマは「野焼き継続に向けた安全対策強化及び草原担い手のすそ野拡大事業」。
レポートするのは、阿蘇市立坂梨小学校の5年生のみなさんです。



広大で美しい阿蘇の草原を維持していくため
今まで以上に安全対策を強化し野焼きを継続

この事業を始められたきっかけを教えてください。

昨年春、阿蘇市で起きた野焼き支援ボランティアの死亡事故がきっかけです。事故後、ボランティア活動の存続も危ぶまれましたが、地元の牧野組合の方たちから、阿蘇の草原を維持していくために活動を続けてほしいとの強い要望を受け再開することに。そんな中、今まで以上に安全対策を強化し、「2度と悲しい事故を繰り返さない」との決意のもと、行政の支援を受けこの事業に取り組みました。



▲公益財団法人 阿蘇グリーントック
野焼き支援ボランティアリーダー 福田俊英さん

経験から生まれた「ヒヤリハット集」を活用。
「恩返し」を合い言葉に安全第一が信条に。

そもそも野焼きはなぜ必要なのですか？

野焼きをしないで放っておくと、雑草や木が生い茂り草原はなくなってしまいます。野焼きは阿蘇の草原を守るために欠かせない作業なんです。しかし、阿蘇の畜産農家の減少や農村の高齢化・過疎化により、野焼きをする人が減少したため、阿蘇の草原を守ろうと、平成10年に110人から野焼き支援ボランティア活動がスタート。現在では、年間のべ2000人以上が活動しています。

現在の活動状況と今後の展望をお聞かせください。

毎年2月、一泊二日で「初心者研修会」を開催し、野焼きの方法や安全対策などに関する講義と実地訓練を行っています。また、今年1月には、これまでボランティアが野焼きと輪地切り(防火帯作り)作業で経験した事例をまとめた小冊子「野焼き・輪地切りヒヤリ・ハット集」を作成し、全ボランティアと牧野組合に配布。経験談とともに危険防止策を掲載しており、誰もが安全に野焼きができるマニュアルとなっています。さらに消防士や自衛官のアドバイスのもと、燃えにくい作業服も揃えました。私たちボランティアは安全第一が信条。そして阿蘇が大好き！自然の恵みを与えてくれる「阿蘇への恩返し」を合い言葉に活動しています。現在、野焼き支援ボランティアのメンバーも高齢化が進んでいるので、これからも阿蘇の草原を守り続けるために、多くの若者たちに参加してもらいたいと思っています。

公益財団法人 阿蘇グリーントック

阿蘇市石1537-1
☎0967-35-1110 <http://www.asogreenstock.com/>

行政機関 熊本県(地域振興課)

■会議体(マルチステークホルダー)の構成
公益財団法人阿蘇グリーントック、野焼き支援ボランティアの会、阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、山都町、財団法人阿蘇地域振興デザインセンター、熊本県(地域振興課)



取材班

阿蘇市立坂梨小学校
のみなさん

紙や堆肥、エネルギーに 阿蘇の草原は可能性が一杯

野草の需要拡大による阿蘇の草原保全モデル事業

テーマは「野草の需要拡大による阿蘇の草原保全モデル事業」。
レポートするのは、阿蘇市立一の宮中学校のみなさんです。



ススキの紙漉体験を通して、
阿蘇の草原を大切に作る気持ちを育てる

この事業を始められたきっかけを教えてください。

昔の阿蘇の小学生は、草原で草を刈る経験をしていましたが、今の子どもたちには機会がありません。また、牛を飼う農家も減り、野焼きもボランティアの手伝いなくてはならない状況となっています。阿蘇に草原を守る人が少なくなってきたのです。そこで、昔から資源として活用されてきた草原の野草を活かすことはできないかと活動を始めました。



▲特定非営利活動法人 九州バイオマスフォーラムの
中坊真さん

おいしい野菜を作り、ヘルシーな牛のエサに
も。アイデアを活かして草原を次世代に残す

どのような活動をしているか教えてください。

昔から牛の飼料、堆肥に良いとして草原の野草が使われてきましたが、あらためて野草のよさをパンフレットや草の根的な広報活動で広めています。また、これまで固くて牛が食べなかった野草を、小さく切っておからなどを混ぜてエサにするTMRという新しい技術にも取り組んでいます。みなさんは草原環境学習で草原のススキを刈り、紙漉の材料にして卒業証書を作りましたが、これも草原を活かす活動の一つ。野草で作った紙を名刺やハガキに加工することで、もっと多くの人に阿蘇の草原を知ってもらえる機会になればと思っています。

今後の展開を教えてください。

草が伸び放題のまま野焼きをするのは危険です。また、野焼きをする人がいないからと言って、草原に木を植えてしまうと景観が損なわれたり、間伐をせずに放置林になってしまうと、土砂災害の原因になる可能性があります。今までは未利用の草原の草はそのまま燃やされていましたが、お金に換えるアイデアを出し合って利益を生むことが肝心。堆肥だけでなく、カナダでは野草を自動車の燃料に変える研究が進んでいます。草原の野草を活用して利益を生み、農業に従事する人を増やしていきたいですね。

阿蘇の草原を守るには、多くの人にPRすることが大切だと思います。

阿蘇の草原に関心を持ってもらうことが、草原を守ることになります。みなさんのように若い人たちにも、草原を次世代に残すことの大切さを知って欲しいと思います。

特定非営利活動法人 九州バイオマスフォーラム

阿蘇市一の宮町宮地5816
☎050-3305-6577 <http://kbk.sub.jp/>

行政機関 阿蘇市(農政課)

■会議体(マルチステークホルダー)の構成
NPO法人九州バイオマスフォーラム、阿蘇市、草原再生オペレーター組合、草原再生シール生産者の会、牧野組合等、環境省九州地方環境事務所、農林水産省九州農政局、熊本県阿蘇地域振興局、阿蘇家畜保健衛生所



取材班

阿蘇市立一の宮中学校
のみなさん